

義兵の稱を著せし、備前守儀再義之へ仕
ふべき旨尾より申す。即ち近頃より其旨を
備前守賢實より生得くし。張良が假し、楚の項羽
を討く。心算ありき。なほば、其の形、氣、心、三年の
内、この領地を賜ふべし。

高級中級別仁義興自富の事

多し 寄る所 代りの郎等 中 邦と して 年 字 有 餘
よ 遠國に 隠れ 老 幼 者 何 一人の 男 あり たり 十二

事の成るに非ざるは、
 誤はぬ。一々を
 川を利穀のより中務老の歎申すも、
 是は此歎の全に思ひけるを、
 其上我数度の忠告を致し、
 今既にさういふ餘りある所の憂目とて、
 返して情を以て恨み骨髄に徹するば、
 身一立候と申領地へハ新明言歎き居るなり。
 此のまゝ中務老とて恨みそハ乃理されは、